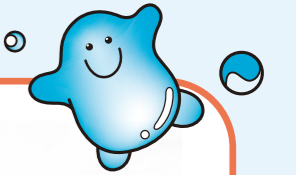


# さっぽろの水道のあゆみ



## 年表 さっぽろの水道の主なできごと

年号	西暦	できごと
明治42	1909	軍隊用の月寒水道ができる
昭和9	1934	札幌の水道建設がはじまる
12	1937	藻岩第1浄水場ができる 札幌の水道ができる
33	1958	藻岩第2浄水場ができる
42	1967	給水人口が50万人をこえる
46	1971	西野浄水場ができる 札幌市水道局では、 配水センターができる 白川浄水場ができる 平岸配水池ができる
47	1972	豊平峡ダムができる
50	1975	給水人口が100万人をこえる
52	1977	水道記念館ができる
53	1978	給水普及率が90%をこえる
54	1979	水質試験所ができる 白川第2浄水場ができる
59	1984	藻岩浄水場水力発電所ができる 清田配水池ができる
61	1986	給水人口が150万人をこえる
63	1988	白川第3浄水場ができる
平成元年	1989	定山溪ダムができる
6	1994	西部配水池ができる
9	1997	藻岩浄水場の改修がはじまる
15	2003	藻岩浄水場の改修がおわる
19	2007	水道記念館がリニューアルオープンする
21	2009	白川第3送水管の一部ができる
22	2010	平岸配水池の耐震化工事がはじまる
25	2013	宮町浄水場の耐震化工事がはじまる
27	2015	宮町浄水場の耐震化工事がおわる
29	2017	平岸配水池の耐震化工事がおわる
令和元年	2019	西野浄水場の耐震化工事がはじまる
2	2020	白川第3送水管ができる
4	2022	白川浄水場の改修がはじまる
5	2023	平岸配水池水力発電所ができる 西野浄水場の耐震化工事がおわる



札幌市水道局では、藻岩第1浄水場の完成を記念して、7月28日を「水道記念日」としているよ。

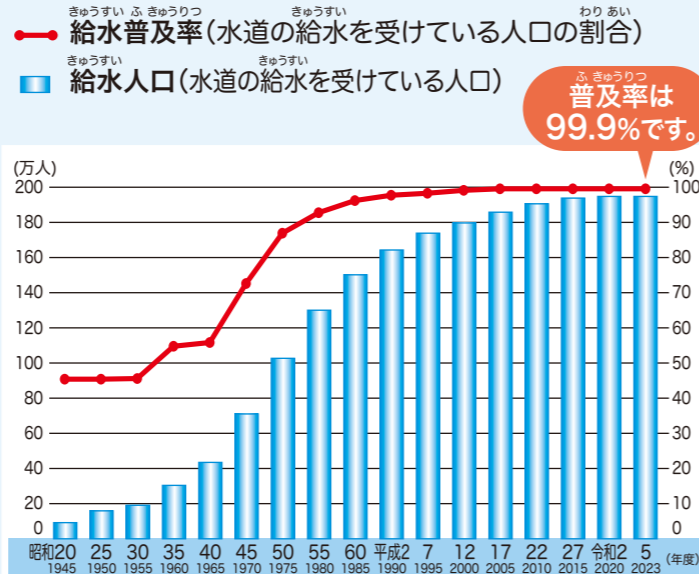
## 水道ができる前

今から150年以上前の江戸時代末(1866年)、大友亀太郎という人が札幌のまちづくりのはじまりとなる用水路の建設にとりかかりました。これが、今の創成川のもととなった『大友堀』です。この大友堀の水は飲み水としても使われていました。また、明治42(1909)年、軍隊が使うために建設された『月寒水道』は、札幌では初めての水道でした。

札幌は豊かな地下水に恵まれ、明治のころは、市街地のどこからでも良質の地下水をくみ上げることができたといわれています。そのため市民は水道の必要性を感じず、市民のための水道の建設は長い間行われませんでした。札幌の水道が大都市のなかでも最も歴史が浅いのは、地下水に恵まれていたからともいえるのです。



## 給水人口と普及率の移り変わり



## 水道のはじまり

その後、人がどんどん増え、市街地がひろがっていくと、豊かだった地下水もしだいに少なくなり、汚れてきました。そこで、きれいな水を安定して送れる水道が必要となり、昭和9(1934)年に水道の建設がはじまりました。当時は今のような土木機械がなく、工事は人や馬の力で進められました。

3年後の昭和12(1937)年、藻岩浄水場をはじめとする水道施設が完成し、1万8千戸、9万2千人に水を送ることができるようになりました。これは当時の札幌の人口20万4千人のおよそ45パーセントにあたりました。



完成したころの藻岩浄水場(昭和12年)



水道管工事のようす



昭和12年~35年ころの水

## 戦後から現在まで

太平洋戦争中と終戦後しばらくは、水道を新たに作る工事はほとんどありませんでした。その後、札幌の急速な発展に合わせ、昭和29年から62年に新しい浄水場や豊平峡ダムの建設、新しい住宅地への配水管の工事などを次々に行い、水道水を送ることができるところをどんどんひろげていきました。

昭和63年ころからは、安全な水をどんなときでも送れるように、水道施設の整備や定山溪ダムの建設などを進めるとともに、近年では、水道施設の耐震化や緊急貯水槽の設置など災害に強い水道づくりを進めています。



豊平峡ダム工事のようす



緊急貯水槽設置のようす



白川第3送水管の工事のようす

